（様式1）

令和6年度　学校評価結果報告書（高等学校用）

学校整理番号	11
学 校 名	青森県立八戸東高等学校
全日制の課程	校舎 ・ 分校
自己評価実施日	令和 ７年 ２月 ３日（月）
学校関係者評価実施日	令和 ７年 ２月１０日（月）

(1)学校教育目標	(1)　心身ともに健康で、奉仕と協調の精神に富み、豊かな個性と「生きる力」を備えた人間の育成 (2)　自主的かつ意欲的に学業や課外活動に取り組み、絶えず学力と品性の向上に努める創造性豊かな人間の育成 (3)　国際化・情報化に対応する語学力、コミュニケーション能力、情報活用能力を備えた人間の育成
(2)現状と課題	多くの生徒が上級学校進学を志望していることから、学校活動の充実と学力の向上を図り、進路志望の達成率を向上させる必要がある。さらに、変化が激しく予測が難しい時代を逞しく生きるために、主体的に課題解決に取り組み、将来設計ができる生徒を育成する必要がある。
(3)重点目標	1 学習指導の充実
	2 生徒指導の充実
	3 進路指導の充実
	4 教育相談・特別支援教育の充実
	5 開かれた学校づくりの推進
	6 快適な職場環境の醸成
(4)結果の公表	学校ホームページで公表する。

(9)-イ　学校関係者評価委員会の構成

元本校教員	１名	
学識経験者	１名	
企業・経済関係者	１名	
地域住民代表	１名	
保護者代表	１名	計５名

自己評価					学校関係者評価	(10)次年度への課題と改善策
番号	(5)評価項目	(6)具体的方策	(7)具体的方策による目標の達成状況	(8)目標の達成度	(9)-ア　学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	学習指導の充実	①わかる授業を大切にし、生徒の学習意欲を高め、自主的学習の習慣化を図る。 ②ＩＣＴを効果的に活用した「主体的・対話的で深い学び」を実践する。 ③互見授業、研究授業、校内外の研修を通して、不断の授業改善を実践する。 ④言語活動を充実させるとともに、読解力を身に付けさせる。	・２回の授業アンケートを実施し、授業改善に役立てた。 ・GIGAスクールにより生徒、教員とも１人１台の端末の整備し、授業等で積極的に活用した。 ・授業研修週間を設定し、研究授業(数・歴・英・理・家）を実施した。 ・授業でペアワーク、グループワーク、発表等の機会を設け、言語活動を充実させた。 ・自己指導能力（生きる力）の育成のために１０分間の「朝読書」を実施した。	B	・図書室の探究学習の時間などでの活用の影響について調査し、生徒へのアピールと先生方の活用を促進することも効果的である。 ・学校評価アンケート（10月実施）の結果を整理し、先生方や保護者へのフィードバックすることで、学校と保護者が協力しながら生徒の向上を目指し、共通認識を持つことが重要である。 ・高校においても特別支援の視点を持ち、支援を必等とする生徒に適切な対応をとることが求められてる。生徒の特性に応じた支援体制を整えることが重要である。 ・表現科の募集定員割れについて、教員が中学校を回ることが提案されたが、より効果的な方法として生徒が中学校に赴き、自分たちの学びを直接紹介する方が効果が高いのではないか。	・主体的・対話的で深い学び、教科横断型の授業等への理解を深め、生徒が「できる・できた」をより意識した言語活動をより促進していく必要がある。 ・各教科内での情報共有を促し、評価に関する十分な説明責任を果たす。 ・ＩＣＴの活用については、多くの授業で生徒一人一人に貸与されているタブレットを活用している。今後、効果的な活用がされるよう、校内研修等を通して教員の指導力を向上させる。 ・家庭においてスマートフォンやゲームに時間を費やし学習時間の確保ができない生徒がいることは否定できない。来年度も家庭での過ごし方について考えさせ、家庭学習の習慣ができるよう指導していきたい。
2	生徒指導の充実	①「掃除・挨拶・５分前」の励行、規則の遵守・他者を思いやる言動など「凡事徹底」を実践する。 ②いじめの未然防止・早期発見に努め、発生した場合は組織的に即時対応する。 ③部活動・学校行事・特別活動・ボランティア活動等を通して人間力を磨く。	・生徒指導部教員・部活動の生徒・保護者による朝の挨拶運動を行い、自ら挨拶する態度を育成した。 ・年３回のいじめアンケートを実施した。いじめの疑いについて情報収集後、いじめ対策防止委員会を速やかに開催し、組織的に対応した。 ・体育祭、文化祭、八東杯と生徒会が中心となり実施することができた。 ・学習支援ボランティアは近隣の小学校の協力により実施した。 ・生徒指導部が中心なり、各ボランティアへの参加を推奨した。 ・書道部、音楽部、演劇部、漫画愛好会を中心となり地域の各種イベントに協力することができた。	A		・地域住民から指摘される登下校のマナーについて、引き続き下校指導を行い、同時に自転車通学生集会や１年生の安全教室での交通ルールの確認を強化する。 ・来年度も引き続き生徒の安心・安全を最優先して学校行事に取り組む。 ・生徒の普段の挨拶に元気が無くなっているように感じている。生徒会を中心に、挨拶運動を展開していきたい。
3	進路指導の充実	①３年間を見通した進路指導の実践と生徒の主体的な進路研究を奨励する。 ②新教育課程下の大学入試問題、総合型・学校推薦型選抜の研究を推進する。 ③面談、学年集会、講演会等を通して、生徒・保護者の進路意識の高揚を図る。 ④難関大学合格に向けて情報収集と指導力の向上を図る。 ⑤全教員で「はちのへ創造学」を推進する。	・１年生の文理選択指導、２年生の総合的な探究、３年生のキャリアデザイン等を行い、主体的な進路研究につなげることができた。 ・総合型、学校推薦型選抜の志望理由書の作成について全教員で指導し、指導力の向上にもつながった。 ・共通テストに導入される教科「情報」については、講習で対応した。 ・各学年とも三者面談を実施した。 ・難関大学希望者に対して、添削指導等を計画、実施した。 ・「はちのへ創造学」として計画し、八戸市内の各事業所の協力を得ながら実施した。	A		・キャリア教育を推進し、具体的には、学校行事やボランティア活動等を通して多様な仲間や年代とのコミュニケーションスキルと協力の仕方を学ぶことで人間関係形成能力を、総合的な探究の時間の充実により課題解決能力を、各種体験活動から得られた学びを次に活かす活動によりキャリアプランニング能力を育成する。 ・今年度変更した総合型・学校推薦型の指導体制は、基本的には今年度と同様の体制で行う予定だが、客観的に評価し、改善すべき点は改善する。
4	教育相談･特別支援教育の充実	①生徒との日常的な対話、面談、行動観察から悩みを抱える生徒を早期発見し、一人一人に寄り添った教育相談・支援を行う。特に面談は計画的に実施する。 ②特別な支援・配慮を必要とする生徒に対して、情報共有を図りながら対応する。	・クラス担任が生徒面談を年に複数回実施し、生徒の希望進路、健康状態と生活状況等を把握し、生徒理解を深めた。 ・保護者と連絡を取り合い、学年・生徒指導部・保健部・管理職が連携して対応し、必要に応じてスクールカウンセラーとの面談を実施した。	B		・人間関係の不和やトラブル等による不登校ぎみの生徒を支援するために、スクールカウンセラーとの連携を強化する一方、教育相談委会の回数を増やすことで心の悩みの的確な把握と解消に向けての組織的・効果的な対応を推進する。特に、新入生および受験生に対してエンカウンターや講演会を実施し、心のケアに取り組んでいく。
5	開かれた学校づくりの推進	①ホームページや学校説明会、授業公開等により積極的に情報発信を行う。 ②保護者、外郭団体と円滑な連携を図る。	・部活動の方針、各部の活動計画ホームページに公開した。 ・PTA健全育成委員会の保護者を中心に、朝の登校時一声運動に参加し、登校する生徒に挨拶をしていただいた。 ・PTA協力を得て、朝の保護者による挨拶運動、イルミネーションの飾り付け、文化祭への参加などを行った。	A		・ホームページのリニューアルに取り組み、学校行事や部活動の情報の更新を速やかに行う。 ・PTAの校内研修への参加者が増えるよう工夫し、協力してもらえる体制を作っていく。 ・生徒に校外での体験活動を積極的に勧めることで、社会を知り、自分の適性を考えながら主体的な進路の選択に繋げたい。
6	快適な職場環境の醸成	①教職員間のコミュニケーションを円滑に行う。 ②教育公務員としての自覚を常に持ち、服務規律を確保する。 ③教職員の心身の健康管理に努める。	・学年間、分掌間との情報交換が十分に行われていた。 ・機会あるごとに、服務規律の遵守を呼びかけ、教育公務員としての自覚を持つように促した。 ・在校時間を管理し、また働き方改革により教職員の心身の健康管理を促した。	A		・学年間で生徒への指導に差が生じないよう、小まめな情報交換を行いながら生徒の指導に当たっていく。 ・生徒の指導に熱心になるあまり、時間外勤務時間を超過する教職員に対して、業務の見直しを促していく。

(11)総括	進学校としての責務を果たすために、生徒の進路志望の実現を目指し、キャリア教育の年間計画に基づいて生徒により高い進路意識を持たせ、学習意欲を高めるために外郭団体や保護者の協力も得ながら様々な進路指導行事を行っていく。生徒指導面では大きな問題もなく落ち着いているが、様々な悩みを抱え登校できない生徒も複数おり、保護者と情報を共有し専門機関と連携しながら生徒の悩みを受け止め、支援の必要な生徒に寄り添っていく必要がある。まだ、日程の詳細は明らかになっていないが、普通教室棟改築計画（令和７年度は仮設校舎建設等工事）が本格化する。このことは生徒の学校生活に大きく影響を及ぼすと予想される。生徒の安全も考慮しながら学習指導、生徒指導、進路指導をさらに推進する。